

第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 アーノルド・ローベルのせかいに、キラリを見つけに行こう
「お手紙」(光村図書 2年下)

2 単元設定の理由

本学級は、4月より“ぼくら〇〇っ子たんけんたい!”として、学習や生活の中で、よいと思えるもの“キラリ”を見付けてきた。国語科では、“ことばのたんけんたい”として、教科書や読書、読み聞かせなどを通して、“キラリ”と光る音読の仕方、物語の紹介文や観察日記の書き方を見付け、学習を進めてきている。音読することや自分の意見を人に聞いてもらうことは好きで、積極的に行おうとする子が多い。物語の学習では、場面ごとに文章から登場人物の気持ちや様子を読み取り、自分なりの考えをもって音読の工夫をしてきた。しかしながら、物語に対し、一面的な見方になりがちで、その物語の登場人物の気持ちを具体的に想像したり、そこから魅力を考えたり、それを基に音読で表現するまでは至っていない。そこで、本単元では、音読劇をする教材のほかに、同じ登場人物の物語を読み重ね、各作品に“キラリ”を見付けることで、より深く登場人物の気持ちに迫り、具体的に想像し音読の工夫をし、音読劇を通して表現できるようにしたいと思い、本単元を設定した。

6月に行った、「スイミー」の学習では、「お話を読んで、しょうかいしよう」というめあてのもと、各場面におけるスイミーの気持ちを読み取り、話の順序を確かめながら紹介する文を作り、友達と伝え合う活動に取り組んだ。場面の様子を人物がしたことや出来事に気を付けて捉えたり、想像を広げたりしながら読む学習は、一学期に「ふきのとう」「スイミー」で重ねてきている。これまでの学習経験を基に、会話が長く、登場人物の心情が表れていることに着目し、行動と会話から場面の様子を読み取る力を育み、そこから音読劇を通して、音読の工夫を重ねることで、より深く読み取る力を伸ばすことを、本単元では重視したい。

本単元は、「お手紙」を読み、登場人物の会話や行動から気持ちを読み取り、それを基に音読の工夫を考え、友達と音読劇で表現することを主たる言語活動とする。簡単な動作もつけて演じる音読劇は、新鮮で学習意欲を喚起させる言語活動である。また、本教材は、会話文が中心の作品である。会話の際の二人の位置、距離、しぐさ、顔の向きなどを考えることで、二人の心情を読み取ることができる。何より、音読劇の根拠となる言葉について考えることで、人物の行動や様子を詳しく読み取り、気持ちを想像させることができるため、本単元で重視している音読することの楽しさを子供に感じさせることにも適している言語活動だと考える。

本単元では、子供たちが誰に発表したいのかを明確にし、それをゴールとすることで、相手や目的意識をもたせ、音読することに取り組ませたい。また、アーノルド・ローベル作品には、「ふたりシリーズ」として、がまくんとかえるくんが登場する作品が多く発表されているため、それを読み聞かせることで、二人の関係により興味をもったり、登場人物のいろんな側面を見たりし、より意欲をかき立てるものとする。複数の作品からがまくんとかえるくんの人物像を見だし、音読劇に生かしていくのか興味深い。

第1次では、教科書教材「お手紙」を読み、物語の内容に対する興味・関心を高めつつ、音読劇をしようとする目的をもつ。第2次では、自分が文章や言葉から見付けた“キラリ”を基に、めあてに対し、場面ごとに行動やその理由、表情、口調、様子などを想像ながら音読の工夫に取り組む。第3次では、かえるくんとがまくんのそのほかの話を読み、二人がどのような関係性なのかを読み取り、音読劇に生かせるようにする。

第2次や第3次で学習したことを生かして友達の音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝え合い、それを基に音読劇を発表し、学習を振り返る。また、単元を通してワークシートを使用する。単元を見通して捉えることに加え、自分の学びが本としてできあがる喜びを感じることができ、主体的に学習に取り組めるようにするためである。

3 単元の目標

(1) 子供の活動目標

そうぞうして、音読げきであらわそう

(2) 指導目標

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。
「知識及び技能」(1)ク
- 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができるようにする。
「思考力、判断力、表現力等」C(1)エ
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。
C(1)カ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
「学びに向かう力、人間性等」

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。 (1)ク	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	① 進んで場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読をしようとしている。

5 指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	【第1次】 ○音読劇の楽しさについて話し合う。 ・どうすれば、音読劇で楽しく表現できるのかを考える。 ・学習の見通しをもつ。	◇これまでの音読学習を想起させるなどして、単元のめあてを設定する。 ◇A3版の両面印刷した振り返りシートを用意し、学習する前の音読劇に対する自分の思いを書き、意欲をもつことができるようにする。 ◇学習前、毎時間の振り返り、学習後、今後してみたい活動など欄を設け、自分の学びが確認しやすいようにする。	
2 3 4 5	【第2次】 ○お手紙を読み、場面や登場人物の行動を確かめる。 ○がまくんの家の前で、お手紙を待つかえるくんとがまくんの気持ちを具体的に想像し、なりきって音読する。 ・二人の悲しい理由について考える。	◇挿絵やリード文を読み、物語の内容を想起させ、意欲をもつことができるようにする。 ◇場所を基本に場面を分け、登場人物やその主な行動を整理する。 ◇各場面の“キラリ”と光る行動や会話などを見付け、その時の登場人物の気持ちを捉えさせ、音読の工夫をさせるようにする。	〔知・技①〕 音読 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読していることの確認

<p>・ 6</p>	<p>○かえるくんが大急ぎで家に帰ってお手紙を書き、またもどるまでのかえるくんやかたつむりくんの気持ちを具体的に想像してなりきって音読する。</p> <p>・なぜ、かえるくんは、かたつむりくんに手紙を渡したのかを考える。</p> <p>○がまくんの家でお手紙を待つかえるくんとがまくんの気持ちを想像して、なりきって音読する。</p> <p>・なぜ、かえるくんは手紙を出したと言ってしまったのかを考える。</p> <p>○がまくんの家の前でお手紙を待つかえるくんとがまくんの気持ちを具体的に想像して音読する。</p> <p>・幸せな二人の理由について考える。</p>	<p>◇挿絵を手掛かりにしながら、叙述を基に登場人物の行動を具体的に捉えるように助言する。</p> <p>◇P13、P14の挿絵から、二人の悲しい気分の理由の違いに気付かせるようにする。</p> <p>◇「とび出し」などの語句を動作化することで、登場人物の行動を具体的に想像させるようにする。</p> <p>◇なぜ、かえるくんはかたつむりくんに、お手紙を渡したのかを考えることで、2年生なりの主題を捉え、お手紙のもつよさについても考える場面を設ける。</p> <p>◇なぜ、かえるくんは、がまくんに自分がお手紙を書いたことを言ってしまったのかを考えさせ、言う方がよかったのか、言わない方が良かったのかを考えるようにし、話し合うように場の設定をする。</p> <p>◇お手紙を待つ二つの場面の挿絵から、気持ちを想像させ、違いについて考える機会を設ける。</p> <p>◇二人の幸せな気持ちの理由の違いに気付かせたい。</p>	
<p>7 8 9 10 11 12</p>	<p>【第3次】</p> <p>○かえるくんとがまくんの登場する他の作品から、二人の違った関わりを見て、それぞれの気持ちを具体的に想像し、音読の工夫を考え、なりきって音読する。</p> <p>・「クリスマス・イブ」を読んでがまくんとかえるくんの気持ちを具体的に想像して、なりきって音読する。</p> <p>・「おちば」を読んで、がまくんとかえるくんの気持ちを想像し、なりきっ</p>	<p>◇アーノルド・ローベル作の「ふたりシリーズ」から、「クリスマス・イブ」と「おちば」を選択し、それぞれのワークシートを用意する。</p> <p>◇「クリスマス・イブ」では、がまくんがかえるくんのために奮闘している様子を読み取らせ、「お手紙」とは違った二人の関係性について考え、さらに「おちば」では、お互いを思いやって行動する二人を読み取らせ、二人の友情が非常に深いものであることを捉えられるように促す。</p> <p>◇これらの読み重ねで、「お手紙」における二人の関係性がより深い友情で結ばれていると感じ取り、音読劇に</p>	<p>〔思・判・表①②〕 <u>ワークシート・振り返りシート</u> 登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像しているかの確認</p>

	て音読する。	向けての工夫を促す。	
1 3 1 4 1 5	<p>【第4次】</p> <p>○第2次で学習したことを生かして、グループごとに音読劇の練習をし、音読劇をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに練習をして、感想を伝え合う。 ・友達の助言や読み方から自分の音読の仕方を考え直し、練習する。 ・音読劇を発表する。 ・全体を振り返る。 	<p>◇同じ場面を選んだ友達と音読劇の練習を行うように提示する。</p> <p>◇友達の助言をそのまま取り入れるのではなく、自分の考えと比べさせ、決めるように促す。</p> <p>◇タブレット端末で、音読劇の練習を動画に撮り、動作や音読を確認するようにする。</p> <p>◇それぞれのグループの工夫、良かった点を中心に、感想を交流できるように場を設定する。</p> <p>◇想像したことを音読劇で表せたかなどを振り返らせるように促す。</p>	<p>〔主①〕 振り返りシート これまでの学習を生かし、想像したことを音読劇に表そうとしていることの確認</p>

6 本時

(1) 目標

①子供の活動目標

「おちば」を読んで、かえるくんとがまくんの気持ちを考え、音読であらわそう。

②指導目標

場面の様子に着目して、登場人物の気持ちを追い、登場人物の行動を具体的に想像し、二人の関係性について読み深め、音読劇で表現できるようにする。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点 (or 指導・支援)	具体的評価規準	評価方法
3分	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてを確認する。	1 教室掲示などを使って前時までの学習を想起させ、本時の学習を確認できるように用意する。		
「おちば」を読んで、音読をくふうしよう。				
20分	2 「おちば」の音読し、2人の気持ちを考える。 ○ ふたりとも本当に幸せだったのかどうかを考える。	2 かえるくんやがまくんの行動や様子から、お互いを思いやる気持ちを考えるように促す。 ○ 「おちば」の中で、キラリと光る行動や様子、会話などを見つけたものを根拠に幸せかどうか考えるように助言する。 ○ また、過去の学習内容が想		書き込み型の振り返りワークシート

7分	3 かえるくんとがまくんの吹き出しに、お互いの思いを書く。	<p>起しやすいように、ワークシートを本状態にしたものや掲示物、板書などを提示する。</p> <p>3 ワークシートに書き込めるような吹き出しをいれておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ かえるくんの気持ち ・ がまくんの気持ち 		
15分	<p>4 本時の学習を生かし、ワークシートに示された本文を音読する。</p> <p>5 学習の振り返りを書く。</p>	<p>4 自分たちが考えた、かえるくんやがまくんの気持ちを想像しながら、「お手紙」を音読できるように促す。</p> <p>○ 音読を工夫するところには、線を引いたり、印を付け足したりできるように促す。</p>	場面の様子に着目して、登場人物の気持ちを追い、登場人物の行動を具体的に想像し、二人の関係性について読み深め、音読で表現している。	書き込み型の振り返りシート

(3) 本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	これまでの学習と結び付けて、お互いを思いやっているかえるくんとがまくんを想像しながら、11時のときよりも、さらに想像を膨らませ、工夫して音読している。
「おおむね満足できる」状況にするための手立て	挿絵や言葉から、お互いを思いやる気持ちを想像させ、どう読めば良いのかを、一緒に考えたり、示したりする。